

大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体平成29年度第2回会議議事録

日 時：平成30年3月23日（金）午前9時30分～午前10時45分

場 所：大和市保健福祉センター501会議室

出席者： 委員9名（欠席なし） 支援組織3名（欠席なし） 事務局

配布資料

- ・ 大和市生活支援・介護予防サービス第1層協議体構成員名簿
- ・ 資料 1 第2層協議体各地域の状況
- ・ 資料 2 シルバー人材センター家事支援事業について

会議次第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 支援組織等の紹介
4. 議題
 - (1) 第2層協議体の設立状況について
 - (2) 今後の第2層協議体の設立について
 - (3) シルバー人材センターの家事支援について
5. その他
6. 閉会

会議内容

1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 異動等に伴う支援組織及び事務局職員の自己紹介
 4. 議題
 - (1) 第2層協議体の設立状況について
 - (2) 今後の第2層協議体の設立について
 - (1) と (2) については、関連があるため一括議題とし、
 - ◆資料1（第2層協議体 各地域の状況）に沿って、6つの地域の活動状況等について事務局から説明。
- 会 長：協議体設立に携わってこられた委員、支援組織の方が本日出席していただいているので、協議体立ち上げについて説明をお願いしたい。
- 委 員：下鶴間・つきみ野地区は民生委員児童委員、地区社協、地域包括支援センターの圏域は一つだが、自治連理事ブロックは2つとなる地域である。このため、最初

に第2層協議体の圏域を2つに分けるかどうかを検討した。その結果住民意識が異なることから2つに分割することとなり、それぞれ協議体設立準備会を立ち上げた。つきみ野地区は自治会が準備会の段階からリーダーシップを取り、1年間の検討を重ね協議体を立ち上げた。一方下鶴間地区は自治会、地区民児協、地区社協が相互に歩調を合わせながら準備会を運営し、平成30年7月1日を目途に協議体を立ち上げる予定である。最後に、今後第2層協議体が各地域で機能し始めてくると、サービスの受け皿として地区社協の強化が必要であると考えている。

委員：福田北地区では、既存の避難行動要支援者対策地域会議を基本に、平成28年に協議体に関する検討会を設立した。当初、構成委員は自治会、民児協、地区社協であったが、その後、ゆめクラブに参加してもらい平成29年7月に第1回の協議体準備会を開催した。準備会として特に力を入れたのが、準備会の構成員が所属している各団体に協議体の意味合い等を理解してもらうための説明会を開催することであった。先行する協議体があったことから、規約や予算の作成に参考することができ、たいへん助かった。準備会を運営するにあたっては、市、市社協、包括支援センターの支援がきちんと入っていることがとても重要なことであると考えている。福田北地区の特徴としては、例えば協議体のネーミングについて公募をするなど地域に理解してもらうための工夫を行っていることである。課題としては、効果的な広報活動を実施することだと考えている。

支援組織：中央地区では、平成19年度から中央地区ネットワーク会議に取り組んできた経緯がある。中央地区ネットワーク会議の一部の構成員からなるリーダー会議があるが、このメンバーを協議体準備会の構成員とした。構成員としては、自治連、地区社協、地区民児協、学識経験者、ゆめクラブの方々である。当初、中央地区ネットワーク会議をそのまま協議体にスライドするという考え方もあったが、中央地区ネットワーク会議の事務局を地域包括支援センターが担っていたため、実際に地域が主体となった時、具体的な活動内容がわからなかったこともあり、準備会で検討を重ねてきた結果、中央地区ネットワーク会議とは別に協議体を立ち上げることにした。今後、協議体は個別支援・生活支援を中心に、中央地区ネットワーク会議はこれまで取り組んできた避難行動要支援を中心に、それぞれ活動していくことですみ分けを図った。もちろん、協議体の活動を地域に広めたりするにあたっては、両方で連携していくことで確認している。そのほか、生活支援・個別支援を進めるにあたって、必要な方に参加してもらおうと考え、大和商工会議所会員に協議体福祉推進員として加わってもらった。またより多くの地域の情報を得ていきたいと考え組織に属さない個人ボランティアの方にも参加してもらっている。

会長：私も去年の9月にハート公所つきみ野協議体の開所式に出席したが、非常に盛大な式典であった。このような協議体が地域でどんどん立ち上がっていけば、良いなど率直に思った。引き続き事務局から、議題2の今後の第2層協議体の設立について説明をお願いします。

事務局：協議体設立に関わった委員の方から説明をしていただいたが、あらためて、地域でそれぞれ実情が異なっているという印象を強くした。避難行動要支援者対策地

域会議やネットワーク会議を母体にしてスタートした地域があるなど、入り口のところで、既に地域の特徴が表れている。このように、地域ごとで、団体の活動や歴史が異なっている。また、各団体にもそれぞれ悩みがある。そういうものを一つ一つすくい上げていきながら、どのような地域になったら良いかという方向性をもって地域の方々と話し合い、勉強会、準備会、協議体を立ち上げていけたら良いと考えている。協議体設立に向けての基本的な方針は、平成27年度の高齢者生活支援サービス構築研究会で協議したとおり、あえて、主導する団体を決めることはせずに、地域の実情を尊重しながら進めていきたいと考えている。この方針を踏まえて、平成28年度に地域に出向いてこの事業の必要性について説明をさせていただいた。この結果4つの協議体の設立、準備会や勉強会の立ち上げに繋がった。今後も、地域の実情に合わせた形で、市社協、地区社協、地域包括支援センター等、関係機関と連携を取りながら進めていきたいと考えている。

会長：引き続き、協議体の立ち上げに尽力されている市社協のボランティア振興課長から意見を願います。

支援組織：地区社協を支援する立場から見ると、第2層協議体の取り組みは、活発化してきた地区社協活動を振り返り、あらためて地域の福祉課題や様々な社会資源を把握し直す格好の機会だと捉えている。また、これまで地区社協支援で培ったノウハウを協議体づくりや運営に生かせるものと考えている。

制度・政策に精通している行政、地域ニーズに詳しい地域包括支援センター、地域活動支援のノウハウを持っている市社協、この三者がお互いの役割を理解し協働していくことで、地域の実情に合わせた第2層協議体の設立支援や運営支援ができるものと考えている。

【質疑】

委員：意見ではないが、福田北地区について補足したい。地域包括支援センターとの連携に関連することだが、福田北地区では、地域包括支援センターの呼びかけで、地域で活動する専門職の職員に向けて、協議体の目指すところを少しでも理解してもらおうと説明会を開催した。住民だけでは、解決できないことがあることを、専門職に知っていただくことで、協議体の活動に役立つと考えたためである。

委員：説明のあった6地区以外の状況はどうか。

事務局：自治会、民児協、地区社協の団体については、市内全地域で説明会を開催した。その後深見大和地区から連絡があり、説明に伺ったが、6地区以外では具体的な動きはない。地域の実情をすべて把握できてない面があることから地域包括支援センター、市社協ボランティアセンターと情報を密に取りながら、地域にどういう入りかたが良いのか30年度に検討していきたいと考えている。

委員：上草柳地区では、上草柳東・西自治会の会長、民生委員、地区社協、私たちの法人が参加して、昨年11月から3ヶ月に1回のペースで勉強会を開き、準備会立ち上げについて検討している。

委員：地域の特性を生かしながら、徐々に準備会を立ち上げることになっているが、なかなか話し合いが進まない地区が抱えている課題は何か、第1層協議体としての支援について何か考えをもっているのか。

- 事務局：市社協、包括支援センター、市との話を重ね行く中で、様々な手法を検討していきたいと考えている。また、第1層協議体の委員の皆さまにも、所属する組織としてどのような対応ができるか、意見をいただきたいと考えている。
- 委員：ゆめクラブでは、私から会員に各地区の話し合いの機会があれば積極的に参加するよう伝えてある。協議体については、自分達の問題だと意識している。つきみ野地区や福田北地区では老人クラブに声をかけてもらい、たいへんうれしく思っている。各地区のゆめクラブに声をかけてもらいたい。
- 事務局：今後の進めた方に関連するが、委員の皆さまが所属する組織では、協議体について話題となったことがあるか、参考にお聞きしたい。
- 委員：地区社協では会長の集まりがある時に、情報共有として、各地区の協議体の現況について報告している。それぞれの団体で情報を共有していくことが、協議体設立に向けての取り組み易さが生まれるのではないかと考えている。
- 事務局：地域の実情は様々である。それをうまくコーディネートしていくには、一人一人の市民も含めて情報共有していくことが一番必要である。
- 委員：南林間地区には連合自治会があって、その中に6自治会があるが、協議体活動において自治会で温度差はないのか。
- 事務局：南林間地区では100名を超えるボランティアの登録があった。地区社協の協力もあったが、自治会の方が積極的に動いた結果であると考えている。各自治会間での温度差は感じていない。
- 委員：連合自治会があるところは、統率力があり、まとまりがあると思うが、連合自治会がないところは、温度差が生じるのではないかと思うが。
- 事務局：南林間地区では自治会会員の区別なく活動しているが、自治会という枠で見ると、他の地区ではどうしても温度差はあると思う。その温度差を埋めるために、地域で考えていただくという視点を大切にしたいと考えている。
- 会長：強力なリーダーシップをもっている、南林間やつきみ野はスムーズに協議体が立ち上がったと思っている。151自治会の内半分が新しい自治会長で、その半分が任期1年の自治会長である。自治会では、何をやるにもリーダーシップが強く求められるが、すべての自治会を同じレベルに引き上げるのは困難である。自治連としても、頭の痛い課題であり、自治会そのものの存在に関わる問題を含んでいる。第2層協議体立ち上げにあたっては、各地域で温度差があることは、容易に想像できるし、その温度差を埋めていくことは難しいと思うが、皆さまが所属している各組織で情報を共有することが大切なことだと考える。

3) シルバー人材センターの家事支援について

◆資料2に沿って、大和市シルバー人材センター理事長が説明。

- 理事長：家事支援サービスは以前から取り組んできたが、平成29年4月に家事支援サービス班を編成し、1名の専属職員を配置して充実してきたところである。受注件数は平成28年度と比較すると、年度末には3.5倍となり100件を超える見込みである。件数は伸びているが、金銭的には単価が低いことから、売り上げはそれほど伸びていない。この場を利用して、皆さま方をお願いしたいことがある。

受注件数には、電球の取り換え等、非常に簡易な依頼も含まれている。また、高齢者の見守り機能を果たすようなサービスもある。このようなサービスは、できれば第3層、地域で対応できるようなシステムがあれば良いと思っている。シルバーは地域で対応できない専門的なサービスに対応したいと考えている。協議体の活動が活発になってきたら、是非、シルバーで対応するサービスと地域で対応するサービスのすみ分けについて話しあっていただきたい。

【質 疑】

- 会 長：私の自治会でも、お助け隊というボランティア活動に取り組んでいる。1年間で6件の依頼があった。委員が述べたように、地域で対応できるような組織を作ることが可能であれば、より安心安全な地域づくりに貢献できると思った。
- 委 員：老人クラブでも、生活いろいろ相談というコーナーを作って、家事支援サービスに取り組んでいる。月3件ほど依頼があり、無料で対応している。老人クラブの会員の中には技術をもっている人がたくさんいる。私も簡易なものは第3層でやっていけば良いと思う。
- 委 員：地元の人に頼むことをためらう人もいる。そういう人はシルバーに依頼してもらいたい。しかし、地域でできることを知らない人も多いと思う。PRを積極的に進めることが大切である。市内全域で協議体が立ち上がって、第3層のサービスについて、議論が活発になれば、シルバーと地域にすみ分けは自ずとできると思う。
- 委 員：専門的とはどの程度のことか。
- 委 員：例えば植木の剪定では、見栄えを良くするには技術が必要となる。シルバーでは造園業と同程度の技術をもった人がいる。
- 委 員：必要なサービスを必要な人に届けることができるようにするのが、コーディネーターの重要な役割である。
- 事 務 局：困っている事をきちんと聞き取ることがすごく大切である。依頼者がどのレベルまでのサービスを求めているのか、近所の人に頼みたくないなど最初の段階できちんと押さえておけば、サービスが円滑に回っていくと思う。
- 会 長：これまでの話は、選択肢が広がっていくと同時に、高齢者の社会参加にもつながっていく内容である。

5. その他
特になし

6. 閉 会
職務代理あいさつ